

RENEWAL

地域に愛される動物園へ



小諸市動物園の再整備に向けて

— No. 3

施設の老朽化、飼育動物の高齢化、多様化するニーズに対応するため、動物園の再整備が求められています。今回は、「有識者から見る小諸市動物園のあり方」や「飼育員と動物とのエピソード」、「9月に開催した市民シンポジウムで寄せられたアンケート」を紹介します。

☎ 懐古園事務所 ☎ 22-0296



佐渡友 陽一氏

帝京科学大学 講師

東京大学大学院総合文化研究科(修士課程)修了。専門は動物園学(経営論)。NPO法人市民ZOOネットワーク代表理事、横浜市動物園等指定管理者選定評価委員、大阪市天王寺動物園経営形態検討懇談会委員。

小諸市動物園の経営史と現状の分析

大正 15 (1926) 年の開園当時、公園は独立採算で、動物園はその財源だった。1970 年頃に全国的な福祉国家建設の流れの中で小諸市動物園にも税金が投入されるようになったが、1982 年に再び独立採算としたのは珍しいケースと言える。そして、2000 年以降入園者が大幅に減ると人件費の大幅カットに踏み切るが、これは公立動物園としては極めて特異的である。動物園が独立採算だった時代、野生動物は安く購入でき、簡素な施設で飼えば済んだ。しかし、多くの野生動物が絶滅に瀕する現代、動物の繁殖は必須となり、飼育に必要な知識と技術は飛躍的に高度化している。その結果、現状の小諸市動物園は、施設の老朽化、飼育技術の蓄積困難、獣医師の不在という大きな課題を抱えている。この状況の改善には、税金だけでなく、寄付などの善意の資金をうまく活用することで、施設と組織両面を改革し、動物の幸せと来園者体験を向上させることが必要であろう。

動物園再整備に向けての市民懇談会

※どなたでも参加可能
※申込み不要

小諸市動物園の再整備について皆さんのお声をお聞かせください。詳細は、広報こもろ 2月号をご覧ください。

▶日時 2/19(火) 19:00～

▶場所 こもろプラザ「ステラホール」

小諸市動物園に求めるもの (シンポジウムでのアンケート結果から抜粋)

右表のアンケート結果を受けて、展示方法の更なる工夫や飼育員の待遇向上、市民参加の推進として、動物園ボランティア等の組織体制構築や企業支援などの支援体制の整備を検討していきます。また、休息場所の充実等も再整備に向けて検討を進めます。

